

- ◆ 各検査部門の初級研修
- ◆ 技師会（日臨技・都道府県）の役割・必要性の啓発

(2) 卒後教育カリキュラムの作成

中堅クラスの技師に対しては、e-ラーニングの活用や、検査研究部門を中心に認定資格取得も視野に入れた系統的な学習体系の確立を目指すと同時に、以下の全国統一カリキュラムを作成する。

(概要)

- ◆ 医療安全管理
- ◆ 医療機器管理に関する安全管理
- ◆ 品質マネジメント
- ◆ 院内感染対策
- ◆ チーム医療
- ◆ 各種認定資格取得に向けて
- ◆ 医療情報システム
- ◆ 診療報酬

(3) 職場復帰カリキュラムの作成

職場を離れていた技師が不安なく復帰できるシステムを作成する。

(概要)

- ◆ 接遇・コミュニケーション
- ◆ チーム医療
- ◆ 配属部署に対応した技術研修
- ◆ 2週間から1ヶ月程度の病院実習

(4) スキルアップのための学習体系の確立

認定総合監理技師カリキュラムの活用

4. 会員確保

近年、都道府県技師会・日臨技においては、会員確保が大きな問題となっている。団塊世代の退職と雇用不安、そして臨床検査技師業務が細分化されたことによる専門学会への入会等が影響していると考えられる。これに加え、細胞検査士や超音波検査士のように、専門学会所属が受験資格に必須になっていることや、技師会への魅力や必要性を感じないといった意識が日臨技への入会を躊躇させていると思われる。

国家資格を有する職能団体として、有資格者全員の入会が望まれるところではあるが、現実には厳しく、「価値のある・会員に信頼される日臨技」を目指すことが重要となる。当面、会員確保・会員離れ防止の対策として、日臨技の本来の役割、職能団体としての意義・必要性、メリットを明確にし、日臨技主催事業などでアピールしていく必要がある。また、新規会員確保のためにも、学生会員制度の設立や中高生への働きかけを積極的に行っていくかなければならない。

1) 会員向け

- ① 日臨技主催研修会等において、理事が日臨技の役割や賠償保険加入によるメリットを説明し、日臨技加入の必要性を啓発する。
- ② 「職能団体である日臨技に所属して仕事をする事が基本である」という意識改革を図る。
- ③ 看護協会の研修制度を参考に、リーダー研修等のスキルアップシステムを構築する。
- ④ 休職中においても日臨技に在籍出来るように、休会システムを早急に実現させる。

2) 新規・新卒向け

- ① 新卒技師が自らの意志で入会するように、技師学校等の様々な行事に出向き学生へのアピールを継続する。
- ② 低額にて学生会員を募集する。学生時代から研修会等に参加することで、技師会の必要性と活動への理解を促す。
- ③ 各学会に学生発表の場を設け、達成感や参加する喜びを体験できる機会を作る。
- ④ 地区学会や都道府県学会に非会員・学生を招待し、日臨技や自県技師会の活動を広く啓発することで入会への意識づけを図る。

3) 職種アピールのための手段の提案

日臨技の中に専門部署をつくり、「けんさEXPO」の全国展開や「手洗いキャラバン」等のイベントを小中学校で実施し、臨床検査技師ならではの活動（顕微鏡による観察やグラム染色を行う等）で一般市民への認知度を高める。

5. 働く女性（男性）技師の環境整備

女性のみならず男性も臨床検査技師として生涯働き続けるための環境作りは、技術職として社会に貢献し、かつその技術を継承していくために重要なことである。そのために可能なあらゆる支援を準備することは日臨技の責務といえる。

しかし、働く女性（男性）の就業条件の多くは、国の労働環境に左右されているのが現状である。

女性就業率の高い諸国では、①国民の所得格差が小さい ②男女間賃金格差が小さい ③短い労働時間 ④減税や家族手当・低い教育費負担などの充実した子育て支援等の政策が執られており、子育てを社会全体で支える意識が強い。国民全体としてこれらの問題に真摯に向き合うことが求められている。当然、日臨技としての支援には限界があるが、一步一步継続して取り組むことで日臨技の姿勢を示すことができる。

就業継続が困難な大きな理由は、平成 20 年に提出された女性部会提言書にもあるとおおり子育てが第一にあげられる。平成 19 年度内閣府「男女共同参画社会に関する世論調査」では第一子出産を機に実に 7 割が離職している。このことが女性の勤続年数を短くしていると言える。

当面子育て支援として以下を提案する

- ◆ 医学検査学会をはじめとする事業開催時に保育所を設置する。
- ◆ 日臨技主催事業はもとより、地区・都道府県技師会事業についても日臨技負担で保育所を設置する。これらの保育所の設置は利用数の問題ではなく、最低保障として設置するものとする。
- ◆ 復職時や再就職時の就業支援（詳細 3. 5.）
- ◆ 休職時の会費減免制度の導入（詳細 4. 1.）

6. 公益事業

現在、公益事業企画推進委員会にて委託事業のがん撲滅、エイズ撲滅、生活習慣病対策事業が展開されている。今後は女性会員（女性会員の活躍を推進する機関）が企画する事業を定期開催できる予算措置を提案する。具体的には、乳がん・子宮がん撲滅や生活習慣病対策などの企画を年数回、全国数ヶ所での開催とする。

7. 会員調査

女性部会が設置されてから 5 年が経過したが、その認知度は低い。女性部会としても会員のおかれている状況や要望の把握は十分ではない。今回、日臨技会員組織調査の一環として実態把握・要望確認の目的で、女性部会提案のアンケートを実施した。会員の声を技師会活動に反映するためにもこのアンケートを継続実施し、集計結果を加味した企画を随時提案したい。

III. 最後に

臨床検査技師としてありつづけるために、日臨技は入会必須の団体となる必要がある。そのためには、地位・制度・教育・環境整備のすべての面で、より一層魅力ある運営を行うと同時に、会員もまた組織を支える一員としての自覚のもとに行動しなければならない。

本提言書では「10 年後の日臨技のあるべき姿」をもとに、早急に対応すべき項目について記載した。これらが実行されることにより、臨床検査技師の地位・レベルを担保し、一層の組織強化と会員の組織率の向上が見込まれる。

「日臨技のあり方」、「女性活躍の推進」については、別途新たな組織を立上げ詳細に検討し、かつすみやかに履行すべきと考える。今回の提言が次年度以降の日臨技運営に生かされ、組織・会員一丸となり日臨技のあるべき姿に近づくために、日臨技には明確な指針の提示と具体的な行動を切に希望する。

<了>